

# **多賀城市民生委員児童委員協議会**

(平成 26 年 2 月 17 日掲載)

## **1. 多賀城市の概要と被災状況**

多賀城市は、人口 6 万 2,256 名(平成 25 年 11 月 30 日現在)で、宮城県のほぼ中央、太平洋岸に位置しています。周辺には仙台市や漁港で有名な塩釜市、そして日本三景のひとつである松島などがあります。また、東部や北部には史跡(多賀城跡等)が点在し、海に近い南部の平野には工場地帯が形成され、西部地区の平野には多くの田園が広がっています。

東日本大震災では、多賀城市内の死者 188 名、行方不明 1 名という大きな被害を生じました。市街地の中心部にある J R 仙石線多賀城駅が仙台港からの最短距離で 22.5km、国道 4 号までが同 1.6km、被害が多かった産業道路まで 1km 以内となることもあり、海に近い街であったことを大震災によりあらためて気づかされました。

## **2. 多賀城市民児協の活動**

### **(1) 楽しく見守る活動**

震災後、今日に至るまで仮設住宅で頑張っている人びとがいるなか、被災しながらも自宅で頑張っている方もとても多い状況です。

多賀城市民児協は 83 名(定数)で活動しています。私たち民生委員・児童委員は、震災後、支え合いの気持ちがとても深まりました。そして地域住民が互いにつながる活動として、支え合いセンターと協力してサロンを開きました。

お茶を飲み、お菓子を食べながら、折り紙、ストラップ作り、あるいはミニコンサートを開いたり、見守り活動をしながら地域住民のコミュニケーションの場として楽しく集っています。いつでも、どこでも挨拶し合う関係ができるようにと考えて取り組んでいます。

また、岡山県の高齢の方から、民生委員を通してたくさんの手編みの膝掛けが送られてきました。いろいろな色の組み合わせで、それはそれは心の中まで温かくなる素晴らしい贈り物でした。その温かい気持ちをそのまま地域の高齢者に届けることにし、見守りをおかねて訪問したところ、とても喜んでいただきました。何か一言書いていただける方にはお手紙をお願いし、写真も添えてお礼にお送りしたいと考

えております。

先日、多賀城駅の高架化に伴い、駅がリニューアルオープンし、同時に市民市（いち）が駅前広場で開催されました。私たち民生委員・児童委員は、愛用しているオレンジ色のベストを着用し、晴天の中、子ども虐待防止月間のチラシ、ティッシュ等を配りながら人の心を和ませる言葉で声がけをしました。たくさんの人と出会いお話しすることができ、とても気持ちの良い一日でした。

## （２）子どもたちへの声がけ運動

「おはようございます。車に気をつけて。お帰りなさい。」

私たちの身近では、いつ降りかかるかもしれない様々な事故が起きています。そうした状況のなか、民生委員・児童委員として何かをしなければと思い、定例会の議題に取り上げて話し合った結果、地域に危険な場所が多くあることがわかりました。そこで11年前から子どもたちの登下校時にその周辺に立って声をかける「あいさつ運動」を続けてきました。震災後の現在にあっても「あいさつ運動」が学校とのパイプ役になっています。

## （３）終わりに

様々な活動を述べましたが、大切なのは、地域とのコミュニケーションを密にし、顔の見える地域社会のまちづくりだと思います。私たち民生委員・児童委員は、これからも震災復興に向け、適切な生活支援が図られるよう頑張ってまいります。